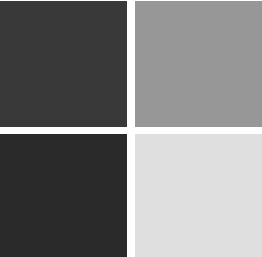


+




相談支援員養成研修会〔後期〕
アウトリーチ

一般社団法人インクルージョンネットかながわ
代表理事 鈴木晶子（臨床心理士）


Copyright ©2015 一般社団法人インクルージョンネットかながわ. All rights reserved.

+




アウトリーチとは？

- 「積極的に対象者の居る場所に向向いて働きかけること」
（「自立相談支援事業従事者養成研修テキスト」より）
- さまざまな形で、必要な人に必要なサービスと情報を届けること。対象者の把握だけに留まらない。
- アウトリーチの目的別種類
 - 対象者を発見・つなげるためのアウトリーチ
 - アセスメントのためのアウトリーチ
 - 支援のためのアウトリーチ
 - 地域づくりのためのアウトリーチ



Copyright ©2015 一般社団法人インクルージョンネットかながわ. All rights reserved.


+



発見・つなげるためのアウトリーチ

- 生活困窮者は自らSOSを発することが難しい場合も多い。
- そのため積極的に対象者を発見し、つなげるための「アウトリーチ」が必要
- なるべく早期に発見できることが望ましい。

経路	方策
①行政機関からの紹介	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政機関内部での連携 ・ 委託の場合行政からの紹介ルールの確立
②行政以外の関係機関からの紹介	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関係機関との連携
③出張・巡回など	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本人からのアクセスを容易にするための工夫。方策
④電話・来所による相談	



Copyright ©2015 一般社団法人インクルージョンネットかながわ. All rights reserved.

**+ Group Work1 :
アウトリーチが必要な状態像**

- ① 事業を始めて発見しつなされた人を出し合ってみましょう。
 - それぞれ付箋にひとつずつ書いて、模造紙に貼ってみましょう。(5分)
 - メンバーでシェアしてみましょう。(5分)
- ② 事業を始めたけれど発見したり、つながったり出来ない人について出し合ってみましょう。
 - 話をしながら付箋にひとつずつ書いて、模造紙に貼ってみましょう。(10分)

Copyright ©2015 株式会社 Suzuki. all right reserved

**+ 発見のためのアウトリーチ例(1)
滋賀県野洲市の例**


行政が持つ「生活困窮状態のサイン」
についての情報を活用

- ・対象者の早期把握のため、**税・保険料や公共料金**の担当と連携し、気になる生活困窮者が自立相談支援事業につながるよう紹介ルールを設定。

サインは既にたくさんある。
それを活用する体制作り。

Copyright ©2015 株式会社 Suzuki. all right reserved

**+ 発見しつながらるためのアウトリーチ
例(2)高校内カフェ**

貧困生徒の通う
“課題集中校”  地域の
“サポーター”

- ・地域から学校に専門家や地域住民がアウトリーチ。
- ・カフェという形態で、自然に話が始まる。
- ・**相談する意識のない生徒たち**と、自然に日常を過ごしながら、ニーズ発見と関係作りを行い、潜在的に支援が必要な生徒が相談をするようになる。

Copyright ©2015 株式会社 Suzuki. all right reserved

**+ 想定される連携先(1)
公的サービスを提供する関係機関例**

徐々に「枝」を増やすことが大切

関係先 — 公的機関

- 公共職業安定所
- 社会福祉協議会
- 消費生活センター
法テラス
- 医療関係機関
- 若者サポートステーション
- 地域包括支援センター

Copyright ©2015 株式会社 Suzaki. all right reserved

**+ 想定される連携先(2)
その他関係機関・団体等例**

徐々に「枝」を増やすことが大切

関係先 — その他

- ライフライン事業者
 - ガス
 - 電気
- 地域の事業所
 - 新聞配達所
 - 郵便局
- 不動産関連
 - 公営住宅
 - 民間住宅
- 地域活動団体や住民団体等

Copyright ©2015 株式会社 Suzaki. all right reserved

+ アセスメントのためのアウトリーチ

本人の来所時の相談だけでは見えて来ない情報を得る、情報をつなげるために積極的に向かいしていく。

- 自宅に向かうことで暮らしの様子が分かる
- 関係機関・関係者と情報共有することで情報がつながる。立体的に本人を理解できる

同行を行う中で、本人の様子が観察できる。

- 一対一（あるいは複数）の相談場面だけでは見えない本人の様子が見える。集団場面、日常場面、etc...
- その他の情報と合わせて本人を理解する

Copyright ©2015 株式会社 Suzaki. all right reserved


+ 支援のためのアウトリーチ(1)

支援を不要だと拒んでいる方へ

- ・「困り感」を感じていない、感じにくい状況にある
- ・改善すると思えない、諦めている
- ・支援者や社会に対する不信 etc...

心身の不調・障害等で来所することが難しい方へ

- ・身体障害があり外出が難しい
- ・体調が悪く、外出が難しい
- ・精神疾患があり公共交通機関を使うのが難しい
- ・対人不安・恐怖があり、人が多いところに出てくるのが難しい

 Copyright ©2015 株式会社 Suzuki. all right reserved

+ 支援のためのアウトリーチ(2)


継続支援をしていたが、現在支援が途切れている方へ

- ・相談がキャンセルになったまま来ていない
- ・音信不通になってしまった
- ・「困ったら来てください」と言ったまま、その後確認していない
就職していったが、その後が心配... etc...

入院中や施設入所中で、来所が難しい方へ

その他様々な事由で来所が難しい方へ


- ・本人の状況、地域の特性を考えながら来所が難しい方には柔軟に
アウトリーチが必要になる

 Copyright ©2015 株式会社 Suzuki. all right reserved

+ 地域づくりのためのアウトリーチ(1)

風通しがよく情報がつながる
地域づくりのためにアウトリーチ

- ・地域に横串をさして、役立つ情報やアイデアを共有する
- ・地域で困っている住民をみんなで見守り、必要な支援につなげるネットワークを組む
- ・地域づくりのためのアウトリーチ戦略を事業の中で意識的に練っていく

 Copyright ©2015 株式会社 Suzuki. all right reserved


+ 地域づくりのためのアウトリーチ(2)

出向く場はさまざま

- ・ 公的機関へ
- ・ 民間の支援機関・団体へ
- ・ 地域住民・事業所、住民団体へ


出向く時もさまざま。

- ・ 公的な連携会議や協議会のために
- ・ ケースを通じた連携に
- ・ 地域があつまるイベントに
- ・ 時には用事がなくても顔を合わせに

 Copyright ©2015 株式会社 Suzaki. all right reserved


+ Group Work2:
具体的に考えてみよう

- 日常的にアウトリーチをするためには、何が必要でしょうか？
 - 相談支援員として必要なこと
 - 自立相談支援機関として必要なこと
 - 地域として必要なこと
- ワークシートに各班ごとに記入
- 時間 20分

 Copyright ©2015 株式会社 Suzaki. all right reserved

+ Group Work2: アウトリーチを
日常的に行うために必要なこと

相談支援員として	自立相談支援機関として	地域として

 Copyright ©2015 株式会社 Suzuki. all right reserved
